

## パンフレット作成による肺静脈隔離術看護の標準化

【背景】当院は循環器専門病院として心臓カテーテル検査・治療は2014年度1539件、肺静脈隔離術(以下PVI)は203件、その他不整脈検査・治療は73件行われている。当院では2005年よりPVIが始まった。現在は4泊5日の入院で行っており、クリニカルパスも導入されている。カテーテル看護師は独自の訪問用紙を使用、外来と病棟看護師はパス用紙を使用し、患者に説明を行っている。パス用紙は簡潔明瞭ではあるが具体的ではなく、細かい部分は看護師の説明が統一されていないのが現状である。そのため、患者の戸惑いがみられることもあった。【目的】看護師の経験年数や所属部署に関係なく統一した説明、指導を行い、患者の不安軽減に繋げる。【方法】術者である医師と相談し、外来から退院後までの経過を具体的に記載したパンフレットを作成。外来、カテーテル、病棟看護師が使用し52名対象にアンケート調査。【結果】パンフレット使用経験者が36名であり、そのうち24名が患者説明しやすい、29名が一連の流れが理解できたと答えた。【考察】一連の流れや注意点など写真を交えて記載し視覚的効果を得ることでイメージしやすくなりPVI看護をより理解することができた。また各部署の看護師が同じパンフレットを使用することで、共通理解を深めることができたのではないかと。【結語】パンフレットを用いることにより統一した説明や指導ができるようになった。また、各部署看護師の連携と教育ツールにも成りえる。